

2020.11.4 第22回図書館総合展ONLINE NIIフォーラム
「誰がやる？研究データ管理サービス」

趣旨説明

情報・システム研究機構 国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター

南山 泰之

minamiyama@nii.ac.jp

ORCID ID:0000-0002-7280-3342



オープンサイエンス推進と人材育成の課題

2015年3月

- 内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
 “大学・研究機関等においては、技術職員、URA、大学図書館職員等を中心としたデータ管理体制を整備できるように、データサイエンティストやデータキュレーターなどを研究支援人材として位置づけられるよう、包括的な育成システムを検討し、推進することが必要である”

2016年2月

- 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会 「学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）」
 - 【大学等に期待される取組】
 “技術職員、URA及び大学図書館職員等を中心としたデータ管理体制を構築し、研究者への支援に資するとともに、必要に応じて複数の大学等が共同して、データキュレーター等を育成するシステムを検討し、推進する”
 - “特に、大学図書館には、機関リポジトリの構築を進めてきた経験等から、研究成果の活用促進の取組に積極的な役割を果たすことが期待される。このため、大学の当該領域に関連する研究科等において、大学図書館職員等を対象にデータキュレーター等を育成するプログラムを開発し、実践的に取り組んでいく”
 - “戦略的な人的資源配分を検討し、新たな専門人材の確保に努める”
- 【国が行うべき支援】
 “複数の大学等が共同して行うデータキュレーター等の人材を育成する取組を支援する”

オープンサイエンス推進と人材育成の課題

2016年7月

- 日本学術会議「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」
“データ生産者やデータ流通者が研究者としてのキャリアを形成できるようにすべきであり、またそのような人材を組織的に育成できるよう、文部科学省は制度的・組織的な対応を進めるべきである”

2017年6月

- 内閣府「科学技術イノベーション総合戦略2017」
“各国と連携して研究者・専門家の評価、オープンデータを広めるためのインセンティブ及び人材育成等の国際的なルールメイキングに対応していくことも重要であり、引き続き積極的に推進していく必要がある”

オープンサイエンス推進と人材育成の課題

2018年6月

- 内閣府 「統合イノベーション戦略」
 “<人材の育成及び研究データ利活用の実態把握>
 研究データの利活用を図るため、研修教材の活用を促進するとともに、実態把握を行いながら、研究者や研究支援職員の意識を向上”

2019年6月

- 内閣府 「統合イノベーション戦略2019」
 - <人材の育成及び研究データ利活用の実態把握>
 “国研、大学等において、研究データマネジメントに必要な人材の育成・確保を推進する。【全府省庁】”
 “研究データ利活用の国内外の動向の調査や優良事例の収集等を2019年度以降継続的に行う。【科技、文】”

これまで多くの政策文章等で
人材育成の重要性は言及されている

今後は具体的なアクションが必要

海外の人材事情

- イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（米）
 - 教員数：2,500人 大学院生数：33,800人
 - 研究データサービス要員として、ディレクター1名、プログラマー1名、データキュレーター2名の計4名をPermanentで雇用
 - サブジェクトライブラリアン、データライブラリアン、その他技術職からなるグループを構成してサービスを実施。ポスドクや院生も活用

- モナシュ大学（豪）
 - 教員数：2,600人 大学院生数：16,000人
 - RDMとリポジトリのガイダンスや管理をするために、4.1FTEを提供している
 - サービスを研究者に広めていくには既存のサブジェクト・ライブラリアンの支援が必要

- ワーヘニンゲン大学（オランダ）
 - 教員数：不明 大学院生数：5,900人
 - 図書館員として、データ管理の情報専門職1名、データライブライアン1名を配置

※教員数・大学院生数は概数
(2019年度時点)

The Realities of Research Data Management. Supplemental
<https://www.oclc.org/content/dam/research/publications/2017/oclcresearch-rdm-institutional-profiles-2017-a4.pdf>

国内の動向

JPCOAR 研究データ作業部会 (旧・研究データTF)

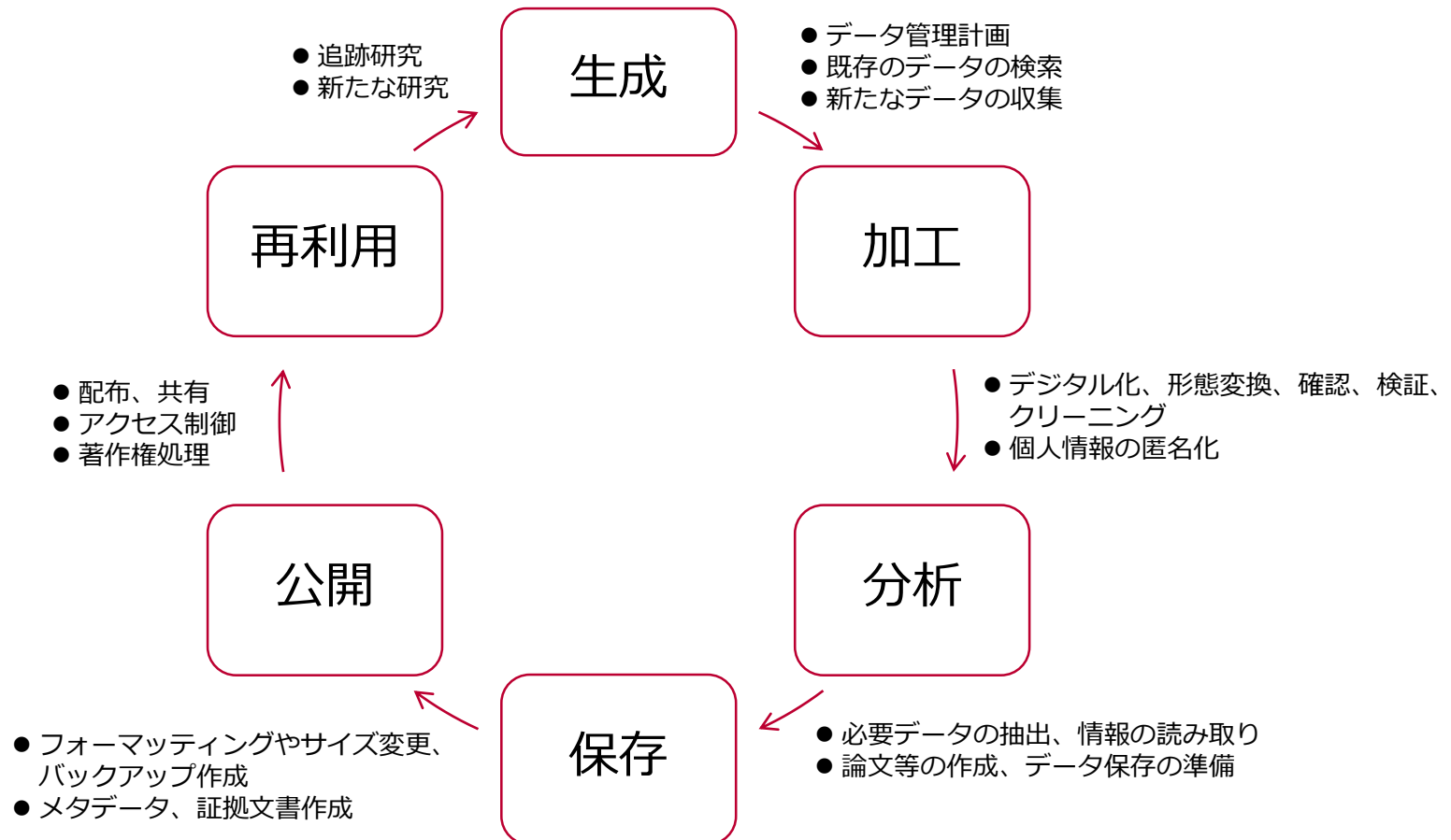


- 研究データ管理の支援に関する様々な取り組みを行う部会
- 2019年度より作業部会に
- 主な活動
 - トレーニング教材の開発
 - 研究データレスキュー
 - RDM事例形成プロジェクト

JPCOARによる教材関連活動のまとめ

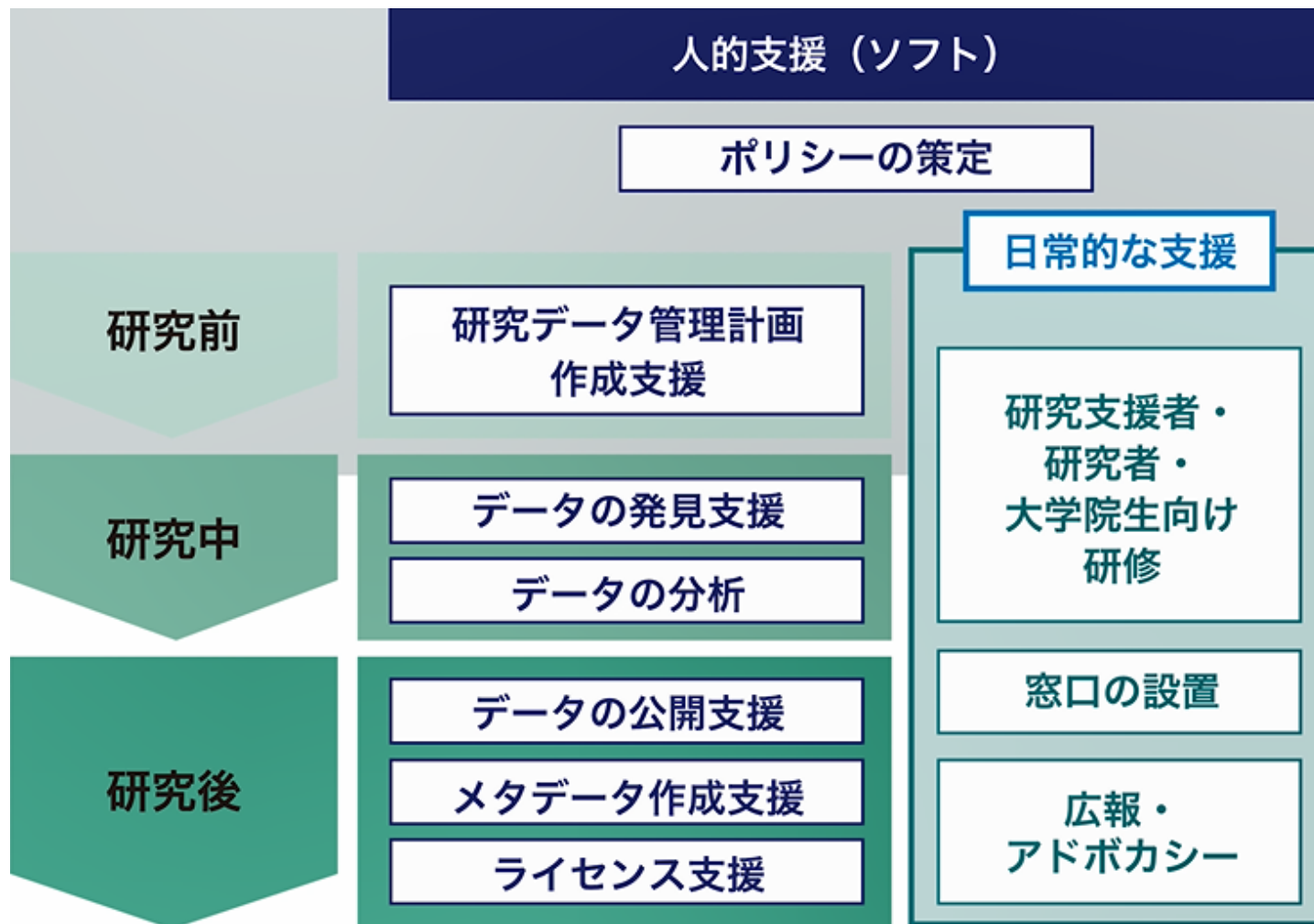
#		Target	Skill
1	第1弾教材 「RDMトレーニングツール」	RDMに関心のある方	RDM Basics
2	NIIによるオンライン講座 「オープンサイエンス時代の研究データ管理」作成支援	RDMに関心のある方、 研究支援者	RDM Basics
3	第2弾教材 「研究データ管理サービスの設計と実践」	学術機関のRDM支援者	RDM Basics + Designing RDM Services
4	学認LMSによるオンライン講座の提供支援 (on-going)	学術機関のRDM支援者	RDM Basics + Designing RDM Services
5	第3弾教材「研究者のための研究データマネジメント」 ← New!	学術機関の研究者	Curated RDM Basics + α

研究データのライフサイクル



個別の段階で求められるアクション、スキルはかなり異なる

実践に当たっては



本日のセッション構成

時間	タイトル	登壇者
9:00-9:05	趣旨説明	南山泰之 (国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター)
9:05-9:25	九州大学で実施した研究データサービスに関するイベントの経緯とねらい	石田栄美 (九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻)
9:25-9:45	何をどう支援する？ ～URAから見た研究データ管理サービスの取組と課題～	梶野顕明 (茨城大学研究・産学官連携機構)
9:45-10:05	京都大学図書館機構における研究データマネジメント支援の取り組み	藤原由華 (京都大学附属図書館 学術支援課 学術支援掛)
10:05-10:30	ディスカッション	全員
10:30	クロージング	